

素粒子メダル創設の思い

東島 清

素粒子論グループは2000年度から会費制に移行しました。その2年ほど前から新素粒子論グループはいかにあるべきかの議論が始まり、新たに設けた素粒子論委員会のもとに5つのワーキンググループを作って具体案の検討を行いました。私は三田一郎さん、山口昌弘さん、米谷民明さんと一緒に賞WGを担当することになりました。

素粒子論懇談会やメールで寄せられた意見を元にWGでたたき台を作り、2000年3月の素粒子論懇談会に素案を提案しました。そこで、「素粒子メダル」および「素粒子メダル功労賞」を創設し、2000年度中に第一回目の授賞式を行うことになりました。メダルには素粒子論の生みの親である湯川秀樹さんの「素」という書をデザインしました。表彰状には、素粒子論の発展に重要な寄与をされた会員を、素粒子論グループ自らが顕彰することにより、現在は評価されなくても正しい研究を行っていれば必ず評価されるのだという信念を共有し、次世代の独創的研究を推奨する願いを込めました。

本当は、次世代を担う若手研究者を勇気づけるための「素粒子メダル奨励賞」を設ける予定でしたが、この時は将来の検討事項として先送りしました。その後、賞WGはじめ多くの人の尽力により、2006年度から素粒子メダル奨励賞が始まったのは大きな喜びでした。

素粒子論研究室を持つ大学はほんの一握りしかありません。ほとんどの素粒子論研究者は周りに同じ分野の人のいない環境で、一般教養としての物理や数学などを教えながら研究を続けています。近年、若手研究者・中小大学研究者を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。任期付きのポストにいる多くの方は、任期が近づくとあらゆる所に応募して、むなしく不採用の通知を受け取った経験があると思います。この賞はそんな環境にある多くの研究者にとって、本人の励みになるだけでなく、素粒子について全く理解しない人に評価してもらおうきっかけにもなるでしょう。

誰も知らない素粒子メダルに格をつけるために、当面、歴史的業績を上げられた先輩達に貰っていただきましたが、本当は若い方々を応援するのが目的でした。そろそろ「当面」を外し、中堅研究者が受賞できる素粒子メダルになって欲しいと願っています。

最後に、年に数個では利益もないのに、意気を感じて湯川秀樹の書の入ったメダル制作を引き受けて下さった、西宮市の山文マーク工芸の故佐々木多摩枝さん、そして新素粒子論グループ発足に指導的役割を果たされ、昨年お亡くなりになった故坂井典佑氏に深く感謝するとともにご冥福をお祈りします。